

ルネサス、2018 年度第 1 四半期の業績を発表

～インターシル統合寄与や産業分野を中心とした成長により、第 1 四半期の売上は前年同期比増収、売上高総利益率は 4 四半期連続で改善～

2018 年 5 月 11 日

ルネサス エレクトロニクス株式会社

- 2018 年度第 1 四半期:Non-GAAP ベース⁽¹⁾の半導体売上高は 1,820 億円となり、前年同期比 5.5% 増収、Non-GAAP ベースの売上高総利益率は 48.0%となり、前年同期比 2.6 ポイント増加、Non-GAAP ベースの営業利益(率)は 314 億円(16.9%)となり、前年同期比で 23 億円(0.5 ポイント)増益。
- 2018 年度第 2 四半期の見通し:Non-GAAP ベースの半導体売上高は前年同期比 0.8%減収の 1,927 億円を見込み、Non-GAAP ベースの売上高総利益率は前年同期比 1.8 ポイント減少の 44.0%、Non-GAAP ベースの営業利益率は前年同期比 1.9 ポイント減少の 12.8%を見込む。

ルネサス エレクトロニクス株式会社(以下 ルネサス)は本日、2018 年度第 1 四半期(2018 年 1 月 1 日～3 月 31 日)の業績を発表しました。ルネサスの代表取締役社長兼 CEO の呉 文精は、次のように述べています。

「ルネサスはこれまで、売上増と費用効率化によって、継続的に売上高総利益率および営業利益率を改善させてきました。2018 年度第 1 四半期の Non-GAAP ベースの売上高総利益率は、4 四半期連続の改善となりました。また、2018 年度第 1 四半期の Non-GAAP ベースの半導体売上は、インターシル社の統合や産業分野を中心とした売上増により、前年同期比で 5.5%増加しました。続く 2018 年度第 2 四半期においては、自動車や産業分野向けに安定的な需要を見込むものの、為替影響により、前年同期と同水準の半導体売上高を見込みます。」

四半期業績概要(億円)

Non-GAAP ベース	2018年度 第1四半期 (2018年1-3月)	2017年度 第4四半期 (2017年10-12月)	2017年度 第1四半期 (2017年1-3月)	前 四半期比	前年 同期比
売上高	1,859	2,102	1,776	-11.6%	+4.7%
半導体売上	1,820	2,064	1,726	-11.8%	+5.5%
売上高総利益率	48.0%	47.9%	45.5%	+0.1pts	+2.6pts
営業利益	314	341	291	-27	+23
営業利益率	16.9%	16.2%	16.4%	+0.7pts	+0.5pts
EBITDA ⁽²⁾	535	545	462	-10	+73

GAAP (日本会計基準)	2018年度 第1四半期 (2018年1-3月)	2017年度 第4四半期 (2017年10-12月)	2017年度 第1四半期 (2017年1-3月)	前 四半期比	前年 同期比

売上高	1,859	2,102	1,772	-11.6%	+4.9%
半導体売上	1,820	2,064	1,722	-11.8%	+5.7%
売上高総利益率	47.8%	47.7%	43.8%	+0.1pts	+3.9pts
営業利益	206	219	221	-13	-15
営業利益率	11.1%	10.4%	12.5%	+0.7pts	-1.4pts
EBITDA	523	526	427	-3	+96

- (1) Non-GAAP ベース: 非経常項目その他特定の調整項目を除いた業績。2017年2月のインターシル社の買収完了に伴い、のれんの償却額、買収した無形固定資産の償却額、インターシル社の買収関連費用、株式報酬費用、株式売出し関連費用およびインターシル社買収に伴う PPA (取得原価の配分) 影響を除外。Non-GAAP ベースと日本会計基準 (GAAP) 間の調整項目は 5 ページ参照。
- (2) EBITDA: 営業利益+減価償却費+長期前払費用償却額。日本会計基準ベースでは、のれん償却額も含む。

分野別四半期半導体売上(億円)⁽³⁾

2017年2月に買収完了したインターシル社を統合し、3事業本部体制に再編したことに伴い、ルネサスは、2017年度第2四半期から半導体売上の開示情報について、当社グループの主要な事業内容である「自動車」、「産業」、「ブロードベースド」およびこれらに属さない「その他半導体」に変更しました。

Non-GAAP ベース	2018年度 第1四半期 (2018年1-3月)	2017年度 第4四半期 (2017年10-12月)	2017年度 第1四半期 (2017年1-3月)	前 四半期比	前年 同期比
自動車 ⁽⁴⁾	924	1,091	978	-15.3%	-5.6%
産業 ⁽⁵⁾	509	542	452	-6.2%	+12.4%
ブロードベースド ⁽⁶⁾	381	409	288	-6.9%	+32.3%
その他半導体	6	22	8	-70.9%	-22.9%
合計	1,820	2,064	1,726	-11.8%	+5.5%

- (3) 分野別半導体売上: 2018年度に「自動車」「産業」「ブロードベースド」の区分について、「産業」の売上の一部を「ブロードベースド」に移管するなど、より事業内容に即した形に変更しました。これに伴い、2017年12月期の数値についても、2018年12月の新区分の基づく数値に遡及修正しています。
- (4) 自動車: 「車載制御」および「車載情報」向けにマイクロコントローラ、SoC (system-on-a-chip)、アナログ半導体、パワー半導体を中心に提供。
- (5) 産業: 「スマートファクトリー」、「スマートホーム」および「スマートインフラ」向けにマイクロコントローラおよび SoC を中心に提供。
- (6) ブロードベースド: 幅広い用途向けに汎用マイクロコントローラおよび汎用アナログ半導体を中心に提供。

2018年度 第1四半期の業績概要 (Non-GAAP ベース)

2018年度第1四半期の連結売上高は 1,859 億円、前四半期比 11.6%減収となりました。前年同期比は 4.7%増収となりました。半導体売上高は、1,820 億円となり、前四半期比 11.8%減収となる一方で、前年同期比では 5.5%増収しました。自動車向け売上は、前年度の旺盛な需要の反動により、前年同期比で 5.6%減収しました。産業向け売上は FA (ファクトリーオートメーション) や家電での強い需要を主要因として、前年同期比で 12.4%増収しました。ブロードベースド向け売上は、インターシル社の統合やアナログ

半導体での強い需要を主要因として、前年同期比で 32.3%増収しました。

第 1 四半期の Non-GAAP ベースの売上高総利益率は 48.0%となり、主に売上増に加えて、生産数量増加や費用の抑制効果などにより、当社予想よりも 4.2 ポイント上回りました。前四半期対比では 0.1 ポイント増となり、前年同期比では 2.6 ポイント増となりました。

第 1 四半期の Non-GAAP ベースの研究開発費(R&D)は、前四半期の 343 億円および前年同期の 270 億円に対し、319 億円となりました。売上高 R&D 比率は 17.2%となりました。

第 1 四半期の Non-GAAP ベースの販売費および一般管理費(SG&A)は、前四半期の 324 億円および前年同期の 247 億円に対し、260 億円となりました。売上高 SG&A 比率は 14.0%となりました。

一時的な売上高の減収により、OPEX(R&D や SG&A などの事業運営に必要な費用)の比率は高くなっていますが、長期財務目標である売上高 R&D 比率と売上高 SG&A 比率の合計を 30%を目途にコントロールを図ってまいります。

第 1 四半期の Non-GAAP ベースの営業利益は 314 億円、営業利益率は 16.9%になり、前四半期の Non-GAAP ベースの営業利益 341 億円および営業利益率 16.2%から減収により 27億円減益となりましたが、0.7 ポイント改善しました。前年同期比では、主に売上増により、23 億円(0.5 ポイント)改善しました。

第 1 四半期の Non-GAAP ベースの親会社株主に帰属する四半期純利益は、259 億円となりました。なお、第 1 四半期の Non-GAAP ベースの一株当たりの純利益は 15.5 円となりました。

第 1 四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、154 億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは 178 億円の支出となり、その結果、フリー・キャッシュ・フローは-24 億円となりました。

第 1 四半期の有形固定資産(生産設備)および無形固定資産の設備投資額は、41 億円となりました。これは、これら資産への投資決定ベースの金額であり、キャッシュ・フロー計算書に記載の現金支出とは一致しません。

自己資本比率は、2017 年 12 月 31 日時点の 47.7%に対し、2018 年 3 月 31 日時点では 49.8%となりました。D/E レシオ(グロス)は、2018 年 3 月 31 日時点で 0.45 倍となりました。

2018 年度 第 2 四半期・上期の見通し

半導体売上高については、2018 年度第 2 四半期は、1,927 億円(前四半期比 5.9%増、前年同期比 0.8%減)、2018 年度上期は、3,747 億円(前年同期比 2.1%増)を見込みます。

Non-GAAP ベースの売上高総利益率については、第 2 四半期は、44.0%(主に前四半期で増加した生産数量の調整により、前四半期比 4.0 ポイント減、前年同期比 1.8 ポイント減)、上期は 45.9%(売上増

により前年同期比 0.3 ポイント増)を見込みます。

Non-GAAP ベースの営業利益率については、第 2 四半期は、12.8% (前四半期比 4.1 ポイント減、前年同期比 1.9 ポイント減)、上期は、14.8% (積極的な R&D 投資により、前年同期比 0.7 ポイント減)を見込んでいます。

為替前提については、第 2 四半期は、1 米ドル 105 円、1 ユーロ 129 円、上期は、1 米ドル 107 円、1 ユーロ 131 円としています。

上期有形固定資産(生産設備)および無形固定資産の設備投資額(期間中の投資決定ベースの金額)は、売上高比で 3%となる見込みです。

以上

(ご参考)

連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュ・フロー計算書については、本日発表の「2018 年 12 月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」をご参照ください。

(将来予測に関する注意)

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、(1)ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、(2)市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、(3)激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、(4)為替レート(特に米ドルと円との為替レート)の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

<この発表に関する報道関係からの問い合わせ先>

ルネサス エレクトロニクス株式会社
コーポレートコミュニケーション部
電 話 03-6773-3001(直通)
E-mail pr@renesas.com

ルネサス エレクトロニクス
Japan GAAP(日本会計基準)とNon-GAAP間の調整項目

(億円)	2018年 第2四半期予想 (2018年4-6月)	2018年 第1四半期実績 (2018年1-3月)	2017年 第4四半期実績 (2017年10-12月)	2017年 第1四半期実績 (2017年1-3月)
売上高(PPA 調整後)	1,961	1,859	2,102	1,772
PPA 影響	-	-	+0	+4
Non-GAAP 売上高	1,961	1,859	2,102	1,776
GAAP 売上高総利益	858	888	1,002	777
GAAP 売上高総利益率 (%)	43.8%	47.8%	47.7%	43.8%
PPA 影響(COGS)	+3	+3	+4	+31
株式報酬費用 (COGS)	+1	+1	+2	+0
Non-GAAP 売上高総利益	862	893	1,008	808
Non-GAAP 売上高総利益率 (%)	44.0%	48.0%	47.9%	45.5%
GAAP 営業利益	144	206	219	221
作り貯め	-	-	-	-
PPA 影響(売上高・COGS)	+3	+3	+4	+31
PPA 影響(R&D, SG&A)	+1	+1	+2	+1
固定資産償却の増加等				
株式報酬費用 (COGS)	+1	+1	+2	+0
のれんの償却額 (SG&A)	+49	+51	+53	+18
インターシル社買収関連費用 (SG&A)	+2	+2	+2	+5
インターシル社買収関連費用 (R&D)	+1	+0	+1	-
買収した無形資産の償却額 (SG&A)	+36	+41	+45	+15
株式報酬費用 (R&D)	+4	+2	+5	+0
株式報酬費用(SG&A)	+8	+6	+9	+0
株式売出し関連費用、その他 (SG&A)	+1	+0	-	-
Non-GAAP 営業利益	251	314	341	291
Non-GAAP 営業利益率 (%)	12.8%	16.9%	16.2%	16.4%

GAAP 親会社株主に帰属する四半期純利益	107	233	186	172
営業利益段階までの調整項目	+107	+108	+122	+70
経常損益の調整項目(PPA 影響)	-	-	+1	-
純利益調整項目(PPA 影響)	-	-	-5	-5
純利益調整項目(インターシル社買収関連影響)	-	-82	-	-
Non-GAAP 親会社株主に帰属する四半期純利益	213	259	303	236